

ヘタレズ指揮官とつよつよ副官ダネル

瑚椒

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ヘタレズ指揮官とつよつよ副官、ダネルが送る何気ない日常の一コマ

マ

※

この小説は不定期投稿です。気とネタが飛んでくれば続くかもしれません

## 目 次

ヘタレズ指揮官とつよつよ副官、ダネル	1
副官と秘密の場所	5
酒の勢いって凄まじい	10
ハッピーハロウイン！	16
【安価】副官にイタズラしてみたwww	20

## ヘタレズ指揮官とつよつよ副官ダネル

2062年！ 世界は核の炎（十崩壊液）に包まれた！

それで何やかんやあつて今度は鉄血人形達が人類に反旗を翻した！

そもそもつてそれに対抗すべく大規模PMC、グリフィン&am  
p；クルーガーは戦術指揮官を多数動員し徹底抗戦の構えを見せた  
そしてそして！ その多数動員された中に私も入つてるんですね！

ひやつほう！ これからは可愛い女の子達に囲まれてハーレムを築けるんだ！ 私にはハーレムを作れる場所がある……こんなに嬉しいことはない……

はい、少し取り乱しましたね、いかんいかん……我淑女ゾ？ 常に余裕を持つて優雅たれつてどこぞのタレ持つてる人が言つてからね、慌てない慌てない

そんでもつてなんでいきなりこんな話をしてるか、だつて？ そりや

目の前に私の着任する基地があるからさ！

ヒヤツハー!! ここが私のハーレムね

「貴女が今日、着任する予定の指揮官であつているか？」

そこに立つていた女性型の人形に私の心は撃ち抜かれた。

綺麗な桃色の髪に透明のような白い肌、そして少々薄めの吸い込まれそうな桃色の瞳。そこにクールな表情と武人のような口調  
いやもうドンピシャですよ！ ああ！ 最高かよ！ 達するツ！  
達するツ！

おつと私は淑女だ、こんなはしたない言葉を使つてはいけない（戒め）

「うん、そうだよ～私が今日からここの指揮官だよ」

そう、今はいつたん落ち着くのだ。  
まずはゆっくりと攻略していこう。

そう思っていた時期が私にもありました……

いや、さ？　まさかダネルがこんなつよつよだとは思わないじやん  
かあ……

「指揮官、獲物が狩人から目を逸らすなんてダメじやないか」  
はい、なんとですね……私は今、ダネルに壁ドンされています。  
そしてここで一つ、私の身長は157cm。方やダネルの身長は1  
70cmとかなり大きめ

つまりですね……私はダネルに見下されている形になるんです  
ヤメツ……なくていいんだけどさあ！　こうめつちや顔を近づけ  
るのは駄目だつてえええ……お前自分の顔の良さ自覚してないだろ  
！　壁ドンはいいけど顔を近づけるのは駄目なんだよお……  
そんなに近づけられると私の心臓が持たないんだつてえ！

「まつ、待つててば!?　まだ口が登つてるしさ!？」

「まつてええ!?　何口走っちゃつてんの私い!?　あつ……そ、その手  
を頸の持つてくるのは……つてもう片方の手で身体を寄せるのもや  
め……いや、このまま美味しく頂かれちゃうのも良いんじやないか?  
(支離滅裂な思考、発言)

「だが、指揮官だつて満更でもない顔をしてるじやないか」

副官殿!! 困ります!! 頸クイをされでは!! あーっ!!! 副官殿  
!! 困ります!! あーっ!!! 惚れでます!!! あーっ!!! 困ります!  
副官殿!! 困ります!! そんなに頸クイあーっ!!! あーっふ、副官  
殿!! 困ります!! 副官殿!!!

「ま、まつて!?　い、いいいいつたんおおお、落ち着こう!?　ほ、ほら  
さ!?　そ、素数を一緒に数えよう?　そうすれば考えも冷静に——  
「ああ、確かに冷静になるのは大切だが……もう無理だ」  
ちよちよちよ!?　今はまずいですよ!!

その時、扉の向こうから話し声が聞こえてきた。その瞬間を逃さず

執務中

に私は一旦ダネルから離れる。

ダネルも渋々と言つた風に定位位置に就いてくれる。いや、お前のそ  
の真面目な表情も良いなあおい！

「やつほー！ たつだいま指揮官!!」

そう言つて元気よく入つて来たのはVZ—61、スコーピオンだ。  
いや～コヤツも可愛いなあ～こう、元気つ子つていうのもいいよね

（わかるよ）

マリア様？（半ギレ）おつと失礼、少し幻聴が……：

「遠征お疲れスコーピオン。今日はもう上がつていいよ。ゆっくり休  
んでね～」

そう言つてスコーピオン達に休みを出す。そしたらスコピッピは  
またまた元気よく執務室から出ていく。

「あつのさあ！ 流石に肝が冷えたんだけどお!?」

当の本人はどこ吹く風でいつものクールな表情をしている。お前  
ほつんとうにその表情似合うなおい！ や、他の表情もいいけど  
も！

「おや、どうしたんだ指揮官。手が止まつているぞ？」

くつそう……おまええ……その小悪魔みたいなら笑い方は駄目だ  
ろおおおおお……

「ほらほら、駄目じやないか。手はこうやつて動かすものだぞ、指揮官  
？」

「おまつ！ お、お前え……近い！ 近いんだつてえ！」

「だ、ダネル……そ、その、よ、夜ならいい、から……」

「……そうか。なら今夜、楽しみにしておこう」

「……おいおいおい、死んだわ私

いや!? なんで自分で墓穴掘つてんの!? 馬鹿なの？ このまま  
だと死ぬよ!?

しかし、時というのは残酷なもので私は何も良い代案が思いつかず  
に口は沈み、オトナの時間になつてしまつた。そう、なつてしまつた  
のだ……なつちやつたんだよお……!!

「指揮官……」

はい。私は今、ダネルと一緒に私の自室にいます。そしてこの部屋に入れるのは私と副官のダネルのみ、もう、何が言いたいかわかるよな？

「ダネル……」

そうして私達の唇は――

『キング・クリムゾン』!!

『キング・クリムゾン』の能力の中ではこの世の時間は消し飛び……そして全ての人間はこの時間の中で動いた足跡を覚えていないツ！

『空の雲はちぎれとんだ事に気づかず!』…………

『消えた炎は消えた瞬間を炎自身さえ認識しない!』

『結果』だけだ!! この世には『結果』だけが残る!!

時間の消し飛んだ世界では「動き」は全て無意味となるのだツ！この先の事を認識できるのはわたし意外には存在しないのだツ！

これがわたしのスタンド『キング・クリムゾン』の能力だツ！

そうして時間は朝まで『消し飛ぶ』ツ！

うーん……よく、まあ……色んな意味でよく眠れた夜でした、はい  
「起きたが、おはよう指揮官」

どうやらダネルの方が先に起きていたようだ。

ベットに寝転びずつと起きるのを待っていた様子、よし、これらダネルにとつておきの必殺技をお見舞いしてやろうではないか  
「うん、おはよう。ダネル」

くらえツ、私のとびつきりの笑顔をツ！

「……全く、指揮官は懲りないな」

「えつ!? ちょっと!? なんで跨るの!? い、今は朝で――  
あまり大声を出してくれるなよ、指揮官?」

そうして第二ラウンドが開始されたのであつた。

唯一の救いは、その日は休日で一日オフだった事だろうか

## 副官と秘密の場所

指揮官の仕事って言うのは結構多岐にわたる。

受け持つてゐる土地のインフラ整備だったり犯罪抑止、鉄血が攻めてきた時の防衛ラインの構築、他の基地への物資供給やら何やら……本つ当に多い！

それを人間一人で管理しろってもしかしなくてもシャツチヨさん頭おかしいんじやないの？

と、まあ軽く説明したけどさ。なんていきなりコイツ聞きてもない事を説明してんだ？ コイツこそ頭おかしいんじやないか？ つて思つてるそこの君イ！ お前にはダネルやんねえからなア！

おつと、話が逸れましたな。いかんいかん……と、まあ軽く説明したけど、今はその業務の一環としてイベントに参加します。

勿論、護衛としてウチの所属の人形を連れてきてるよ。

「指揮官、そろそろ時間よ。台本の準備はOK？」

「もつちろん！ 昨日ダネルと相談しながら書いたからね、ちゃんとG36のお墨付きだよ」

昨日は大変だった……何度も何度も修正しながらようやく出来た台本だ。ちゃんと――

「あれ？」

おつかしいなあ？ 確かにここにしまつたはずなんだけど……

「ま、まさか……忘れたの!?」

「そ、そんなはずは……」

そ、素数を数えて落ち着くんだ……2、4、6、8……  
ワイ……これ偶数や、素数とちやう

「や、ヤバいよ！ どうしよう！ 台本忘れちゃった!?」

こ、こうなつたら思い出しつつアドリブでやるしか……

「えつ……ダネル？ どうしたのよ？ 指揮官？ ええ、いるけど？」

どうかしたかしら……分かつたわ  
ん？ 今、ダネルって言つたよね？

「これ、ダネルから」

そう言つてグリズリーは片耳に収まる小さなイヤホンを差し出してきた。

「ああ、着けろつて事ね。おｋおｋ

『指揮官、聞こえているか？』

「おお、ダネル。大丈夫、聞こえてるよ！」

『なら良かつた。指揮官、台本を忘れたらしいな』

えつ……なんで知つてんの？ 私まだ誰にも言つてな——いや、まさか

「ダネル、さては私が忘れてるの知つてたな？」

『はは、まさか。何を根拠に……さて、ここで一つ相談なんだが』  
この反応、確実に故意ですね……間違いない。

と言うか一つ相談つて……まさかこやつ、私に何かさせる気だな？  
かと言つて何も打つ手が無いのは事実……この”相談”とやらに  
乗るしかない……

「はあ……分かつたよ、それで相談つて？」

『私が指揮官のサポートをしよう、その礼としてこのイベントが終わ  
れば少し行きたい場所があるんだ。付き合つてくれないか？』

「まあ……そのくらいなら……」

てつきり夜戦が更に激しくなるのかと思つたけど違うみたいだね。  
流石に連日夜戦は私の体が持たないナリ……

え？ 夜戦のシーンはBDの特典としてついてきます。値段は1,841,216ロシアルーブルになります。皆様の購入をお待ちして  
おります。購入はこちらから→釣られたな、ポツタ→

「指揮官さん、そろそろ準備の方をお願いします!!」

おつと、呼ばれたね。それじや、ダネルを信じるとしましようか  
私はステージの上に立ちマイクを調整する。

「ん、ん……失礼。どうも、こんにちは、私は——」

それから挨拶を終わらせてかなりの間をイベント会場で過ごし、空  
高くにあつた太陽は沈み、空は濁り始める。

「終わつたあ！ 疲れたよ、ダネルう、私を癒してえ～」

ようやくクツソ堅苦しい夕食会が終わつたよ＼あのおっさん達下心丸出しで隠そともしないんだからさ……ほんと、嫌になつちやうよねえ

「指揮官。はしゃぐのはいいが体力を使い過ぎるなよ」

企業のおっさん達との楽しくない美味しくない下心満載の目線と最悪の三拍子揃つたイベント会場から抜け出して今はダネルの運転する車に乗つてる。

因みに向かつてゐる先は私には知らされてません。聞いたけど教えてくれなかつたんだよね、まあダネルの事だから危険な場所ではないと思うし

「指揮官。もし、このまま全てを投げ出して一緒にどこかへ行こう、と言つたら貴女は着いて来てくれるか？」

「ん／＼いきなりだねえ！」

ダネルと一緒にならどこへだつて行つても構わない。例えそれがこの世の最果てだらうと……でも――

「それならみんなと一緒にいい、なあ……皆で一緒に色んな場所に行つて、色んなモノを見て、色々な事を学ぶ。私は、これがいい、かなあ！」

皆と一緒にならどこへだつていける気がする。どんな事があつても、皆で力を合わせれば解決出来る気がするんだよね」

「そうか……ふふつ、それは指揮官らしいな。そうだな、行くなら皆一緒だ」

ダネルも少女の様に笑いながらそう言つてくれた。それに釣られて私の頬も上がる。

そうしてダネルは私と他愛ない話をしながら車を走らせる。

「着いたぞ、指揮官。少し目を瞑つてくれないか？」

「うん、いいよ～」

ダネルの言う通りに目を瞑る。え？ 危ないんじやないかつて？

ははつ、ダネルが危ない事する訳ないじやん

おつと、ダネルが手を引いてくれてる。どこまでいくんだろ？ 今ヒールだからあまり歩きたくはないなあ……

「指揮官、もう目を開けてくれて大丈夫だ」

私はダネルに言われたとおり目を開ける。するとそこには星が空  
いっぱいに光り、輝いていた。

「ダネル……これって……」

「綺麗だろう？ MG5に教えて貰つたんだ、どうだ？ 気に入つて  
くれたか？」 指揮官

「勿論！ すごいね、こんな綺麗な夜空……私見たことないよ……」

こんなに綺麗な夜空、初めて見た。

星という宝石がこれでもかと言う程に空と言う宝石箱に詰め込まれた光景に私は釘付けになっていた。

「なあ、指揮官。少し、私の方を向いてくれないか？」

「ん？ 何々、どうしたの？？」

私は星空から視線を外してダネルの方を向く。

ダネルは片膝をついて小さな箱を私に差し出している。

「指揮官、貴女は複数の中から私を選んでくれた。それには心の底から感謝している、だが、私はもうそれだけでは足りないんだ。私は指揮官を誰にも渡したくない。だから、私と――結婚してほしい」

「へつ……？」

……

……

……

「ふえっ！」

「待つて！ い、今なんて言つたの？ け、結婚！ 誰が？ いや、私がだよ！」

「ダメ、だらうか……？」

いや、ちょっとと……そんな捨てられた子犬みたいな顔しないでよ

……

「ちよ、ちよつとまつて……」

や、やばい……まったく考えが纏まらない……お、おちつけ……深

呼吸、深呼吸だ……

「そ、その……へ、返事は……」

「今すぐだ。今すぐ欲しい」

「えと……その……ふ、不束者ですがよろしくお願ひしますう……」

あああああ……言つちやつた……言つちやつたよお……

「ああ、こちらこそ、今から、そしてこれからもずっとよろしく頼む。

指揮官」

ダネルは私の左手を取り薬指に指輪をはめ込んで手の甲に軽く口付けをしてくれる。

ああ、私はなんて幸せなんだろう……ずっと好きだった。だから副官に任命して真っ先に誓約した。それでも足りなかつた。私は……いや、私達は、誓約だけじゃ足りなかつたみたい

「ありがとう！ ダネルう……本当にありがとうございます！」

涙で視界が霞む。きっと今の私の顔は酷いんだろうな

「私の方こそありがとうございます、指揮官。いや――」

この後帰つてめちゃくちゃS○Xした

## 酒の勢いつて凄まじい

私とダネルが結婚してはや数日が立つた。

まあ、結婚したからと言つて何が変わる訳でもなく、私とダネルはいつも通りに過ごしていた。

まあ、式場はどこにしようか、やら、方式はどれにしよう、やらそんな話もしていたが基本的にはいつも通り……と言いたいんだけど結婚してから夜戦が激しくなった気がする。気のせいだと思いたいけど多分気のせいじゃないんだよなあ……

つと、今は業務に集中しないとね

「指揮官、この書類にサインを頼む」

「はい、えーとこの書類は……」

「ああ、ちょっと前に経営困難って申請出してたもんねえ……」

「他にもサイン必要な書類とかある?」

「いや、もうそれで終わりだ。ついでに言えば今日の仕事はそれで終わりだ、指揮官」

あれ? もう終わりだ。まあ今日の書類は少なかつたしなあ

「終わりかあくんんくさて、今からどうしようかなあ」

部屋でダネルと一緒に映画とか観ようかなあ、それか式場とか決めてもいいかも知れないなあ……あ、そうだ!

「ねえダネル、せっかく早く仕事終わつた訳だしカフエに行かない?」

「ん? いいな、それじゃ……いや、指揮官。先に行つてくれないか?」

用事つてなんだろう? まあいいや、ダネルだつて隠し事の一つや二つあるもんでしょう

「それじゃ先行つてるね~」

ダネルに先に行くと言うか旨を伝えて私はスプリングフィールドの経営してるカフエに向かう。

このカフエはスプリングフィールドが趣味でやつてるんだけど内装とかメニューとかすつごい凝つてるんだよねえ~そして何よりスプリングフィールド淹れるコーヒーと手作りケーキは本当に美味し

いんだよ！

という訳では非ぜひ皆さんも足を運んでみては如何でしょうか？  
皆様のグリフィンへの入隊をお待ちしております！ 今日から  
君も

P M C だ！

はい、勧誘も程々にしてダネルを待たないとね

「あら、指揮官。いらっしゃいませ、今日の執務は終わつたので？」

「あつ、スプリングフィールド！ うん、今日は終わつたよ、今はダネ  
ル待つてるから注文はダネル来てからでもいい？」

「はい、構いませんよ。それにダネルさんがいらっしゃるならあちら  
のテーブル席にお座りください、その方がよろしいでしょ？ 指揮  
官」

「あつ、そだね、ありがとスプリングフィールド！」

席をカウンターから窓際のテーブル席に移動してダネルを待つ。  
だいたい十分ぐらい遅れてダネルはやつてきた。やつてきたんだ  
けど

「今日は僭越ながら私がお世話をさせて頂きます。ご主人様」

いやー、まさかさー

ダネルがメイド服着て来るのは思わないよね……さてはお主我を  
尊死させるきだなあ？

「おや、返事がないぞ。ご主人様」

「ひやつ……」

あー！ メイド様！ 頸クイは困ります!! そんない顔を近づ  
けられては困ります!!

「ダネルさん、そこまでにしないと指揮官が倒れちゃいますよ？」

「あつ、そうだな。今はここまでにしておこう。それでご主人様、注文  
を伺おう」

「え、えつと……それじゃ紅茶とショートケーキを貰おうかな」  
私が注文を言うとダネルは了解した、と言つてカウンター裏に向  
かつていつた。

だけどスプリングフィールドはいつもいるカウンターには戻らず

に私の向かい席に腰を下ろした。

「あれ？ 戻らなくていいの？」

「はい、今はお客様はいませんから」

「あれ？ そう言えば今日はお客様少ないね」

いつもなら夜勤の人形が何人かいるはずなんだけどなあ、皆忙しいのかなあ？

「そうですね、今日はゆっくり出来ます」

うふふって口を覆いながらおしとやかに笑つてるとスプリングフィールドは綺麗だなあ

それからスプリングフィールドと話が盛り上がりつてるとスプリングフィールドから予想の斜め上質問が飛んできた

「所で指揮官、ダネルとの初夜はいつなのですか？」

「ぶふうつ！？」

この子いきなり何言つてんの！？

「す、すすスプリングフィールドさん！？」

「はい、なんでしょう？」

ニコニコして言つてるけど言つてる事無茶苦茶なんだよなあ……確かに女三人寄れば姦しいとは言うけどさ？ まあ、今話してるのは二人だけだけども……

「それで、いつやつたんですか？」

「えつと……わ、笑わない？」

「はい、笑いませんよ」

「えつとねえ……あれは——」

そう、あれは私がこの基地に着任して数ヶ月程たつてから、だつたかな……あの時は私も今みたいな感じじやなくてダネルも今みたいに押せ押せつて感じじや無かつた

どんな関係だつたかつて？ うーん、誓約未満戦友以上、つて感じだつたかなく

それである日にお酒に誘つたんだよねえ、あの時も今日みたいに仕事終わるのが早かつたなあ

「ふむ、晩酌と言うやつか？」

「まあ、そんな感じかなあ、勿論付き合ってくれるでしょ？」

「勿論だとも、酒を嗜んだことはないが丁度いい機会だ」

ダネルは機嫌よく鼻歌を歌いながらテキパキと書類を片付けていく。

よつぽど楽しみなんだろうなあ、何時も以上に書類を捌くスピードが早い。そして何より鼻歌を歌う姿がとつとつってと可愛い！

はーまだ無理……誓約、しよ……？

それから数時間、お互に食堂で夕飯を食べて今は私の私室でお酒を空けてる。

今はワインを空けて少しずつ飲んでるんだけどもう既にダネルは顔が真っ赤っかになっちゃってるんだよねえ

私もあんまり強いほうじゃないけどダネルこんなに弱いとは思つてなかつたなあ

「おーい、ダネル。もうそろそろ寝た方がいいんじゃない？」

「ん、いや、まだ大丈夫だ指揮官。それよりもグラスが空になつてしまつた……」

「ええ……まだ飲む気？ もうやめどこ？ ほら、肩貸すから——」

私がダネルに肩を貸そうとすると凄まじい力でベットに押し倒される。

「だ、ダネル？」

この副官……スケベすぎるつ！ と、言うかですよ……なんで少しき服がはだけてるの？ しかも目がなんか据わつてるんですけど？ あれ？ もしかして私美味しく頂かれちやう……？

「い、一旦落ち着かない？」

「はあつ……はあつ……指揮官……つ」

そしてダネルは私の口を——

最初にひとつ言つておく。

『時は加速』する。

わたしの能力は……完成したようだ。

そしてこれは……おまえたちを始末するための能力ではないし『最強』になるための力でもない……

この先の光景をわたしだけが堪能するための力なのだ。

名を冠するなら『メイド・イン・ヘブン』

「つて感じ、かなあ……」

そつから数日後に誓約つて流れで今に至る、と

あれ以来ダネルには絶対にお酒を飲ませないようにしてるなあ

……

「まさか初夜は酒の勢いだつたとは……口マンチックではありますね」

「まあ、今どきロマンチックな初夜を過ごせるなんて極小数だし？ 別にいいんじゃないかなあ」

別に今が幸せだしそんなの気にした事無いしなあ

「おや、準備できたみたいですし私はこれで失礼しますね」

「じゃあね」

スプリングフイールドと入れ違いでダネルが紅茶とショートケーキを運んできてくれた

「お待たせしました、ご主人様」

そう言つてダネルは手押し車からティーカップを取り出して紅茶を淹れてくれる。

「ありがと、ダネル！」

お礼を言つて紅茶をちよびつと飲んでケーキを食べる。  
うん、美味しい!!

「美味しいよ、ありがとダネル」

「そうか、気に入つてもらえて良かつたよ。指揮官」

そして私はしばらくの間ダネルの用意してくれたケーキを食べていたんだけど……

何故か身体が熱い……あまり上手く頭がまわらない……ま、まさかっ!?

「だ、だねるう……」

「ふむ、効き目は薄いが味に違和感を感じさせないのはいいな」

「こ、こいつ!? 薬盛りやがったなつ!!」

「さて、と」

「お、おまつ!? 流行らせコラ……流行らせコラ!!」

「すまない、スプリングフィールド。指揮官の体調が優れないようだから私達は失礼する」

「あつ、はい。わかりました。片付けは私がしておきますのでダネルさんは指揮官の事をお願いしますね」

「す、スプリングフィールド!? 裏切ったのか貴様ア！」

この後めちゃくちゃS O Xした

## ハツピーハロウイン！

「ふふつ……トリック・オア・トリート、だ。指揮官」

私は今副官であるダネルに後ろから抱きつかれている。いや別に抱きつかれるくらいならどうって事は無いんだよ？ でもね？ 後ろから抱きつかれた状態から耳元で囁かれるのは流石の私でも耐えきれぬのだよ……

本当に、どうしてこうなったのか……それは数時間程前に遡る。

さて、唐突だが皆様は今日何の日か存じだろうか？ そう、ハロウインである。

こんなクソみたいなご時世でもこう言つたイベントは行われる。何故かつて？ 答えは簡単、皆こうしてバカ騒ぎできる口実が欲しいんだ。

それは私も変わらない。私だってたまには羽目を外したい時だつてある。

「そう言えば今日はハロウインだな、指揮官」

私が書類を捌いている時にダネルは唐突に話しかけてきた。

「そうだね～今年は去年みたいにならないといいけどね～」

去年は大変だつた……FNCは暴走するしC—MSはもつと欲しつつてワガママ言うし……そして何よりTAC—50妖怪メープルシロップだ。何故彼女はあんなにもメープルシロップに対して強すぎるこだわりを持つているのであろうか？ 私には分からない。

「それで？ 今回は多めに用意してるのか？」

「うん、前回の事を踏まえて今回は多めに作りましたとも！」

ふふん！ 私はお菓子作りが趣味なのだ！ 今回はクッキーやタルトケーキにチョコレート！ 他にもいっぱい用意した私に死角はないのだ！

「そうか、足りるといいな」

そう言つてダネルはニヤリと笑う。

なんだか意味深な発言ですが今日の私は完璧なのです！ 昨日ほ

ぼ丸丸一日使つて作つた大量のお菓子だぞ！　この基地の人形全員に配つても余裕でお釣り来る量なので余裕のよつちやんですよ。

「それじやさつさとこの書類ぜーんぶ片付けちやおつか！」

「ああ、そうだな。さへだと用付けるとしよう」

そして私達はさつさと書類を片付ける  
量はかなりあつたが気合  
で終わらせる。

すると部下の人形たちは待つてました！と言わんばかりに執務室になだれ込んでくる。お前ら仕事はどうした？

一心醜であるな  
もん縊れらしていり

表書はモーとノガニ・ニカ・カニ

「さて、お前らお菓子が欲しいかあ！」

ほしい！」

すると部下達はキレイ

「はい、FNC。今回はこれだけだからね、前みたいに暴走しないよう

「お、」

コヤツ舌打ちしおつたぞ。  
君愛らしい顔して結構口悪いよね。

はい 次はお二君が

いや、悪くは無いんだけどさあ・

からアラックリスト入りしてるんだよなあ……

可愛いので許す！ 可愛いは正義。 古事記（ver. 206. 1）

二二六

「げえ!? SPAŞU!?」

「やめよ」と！ そのリバクションは酷いよ！」

いや、君は去年の惨劇を忘れたというのかね」

去年は……それはそれは酷いものだつた……S P A Sを筆頭にF N CやP K Pが暴食の限りを尽くし、それなりにあつたはずのお菓子はキレイさっぱり胃の中に納めやがつたのだ……

まあ、去年はバイキング形式だつたからね……仕方ないと言えば仕方ないよ……

「とりあえず、はい。今年は暴走しないように！」

「はい……つてこれだけ？」

まずい……S P A Sには他の人形より多めに入れているはず！ まさかッ！ 足りないというのか？ ええい！ I . O . P のショットガン人形は化け物か！

「ねえ……指揮官、私のはこれっぽっちなの？ 少ない……少なすぎるよ……これだけじゃ全く満たされないよ……」

ちよちよちよちよ！ ハイライトを消して近付いてくるんじやないよ！？

お、おい！ やめろ！ それはお前のじやッ！ ああ！ 持つてくな！ あつ！ 列を崩すんじや、あつアツー！？

S P A Sの暴挙を皮切りに列をなしていた人形達はこぞつて自分達のお菓子を確保する為に一斉に動き出したのだ。

それに私は巻き込まれ、揉みくちゃにされました……それとサラツと私の尻を触つて下着盗んでいつた褐色のショットガン人形、怒らないから返しなさい。

「チツ！」

コノヤロウ……I . O . Pに送り返すぞ！

そして喧騒が収まる頃には大量にあつたお菓子は一つ残らず持つていかれたのであつた……悲しいね、ダネル……後助けて欲しかったナ！

「無事か？ 指揮官」

「見ての通りお尻触られて下着盗まれたけど元気だよ……」

元気とはなんなりや？ 私はそれを探るためA m a z o nの奥地へと赴くのであつた（赴かない）

「はあ……酷い目にあつたなあ……あのムチムチショットガン人形と

褐色レズショットガン人形は一発シバいてやる！」

絶対に許さない！　あなた達をお菓子強奪罪で訴えナス！　覚悟の準備をしておくとヨロシ！

その時私は気付かなかつたのだ……ダネルが、口元に弧を描いていた事に……

「指揮官、お菓子は”全て”無くなつてしまつたんだな？」

「うん、そうだね～ごめんよダネル。ダネルの分を——まさかツ!?」

私は背後から近付いてくるダネルに気付かずにぎゅっと抱きつかれる。

そして耳の中に舌を入れ汲まなく舐められる。

「あつ……だ、だねつ～～！」

後ろからぎゅっと抱きつかれ後頭部には柔らかい感触、そして耳には溶けてしまいそうな程熱い何かが込み上げてくる。

「まつ、つ～～!!」

「ふふつ……指揮官はここが弱いんだろう？」

耳中を舐めるのを止めたダネル。今度は耳たぶを吸つたり優しく噛んだりして挑発してくる。私はそれに敵わずにへたり込見そうになるがダネルに抱きつかれている為、それも許されない。

「ふふつ……トリック・オア・トリート、だ。指揮官」

「まつ……」、こゝは、ダメ…………だから……いどう、しょ？」

そして私室へと移動した私達は――

## 『The World』

俺だけの時間だぜ

この『止まつた時』の中で動けるのは俺だけだ……

故にツ！　お前達はこの後の光景を見ること無くツ！　そして何が起きたか理解する暇もなくツ！　あの世に旅立つのだアツ！

次の日、私は腰痛でベットから起き上がる事が出来なかつた。そしてダネルはG36にこつびどく叱られていた。

【安価】副官にイタズラしてみた WWW

「指揮官？　聞いているのか？」 指揮官？」

聞こえないフリ、聞こえないフリ、私は今何も聞こえないんだ……

「ふむ？　寝ているのか？」

おつ？　これは騙せ

「……つ!?」

「ふむ？　少し動いたか、気のせいいか？」

こ、コイツウ！？ 寝てる相手の胸揉みましたよ！　だが平常心です

平常心……心を無に、悟りを開くのデース！

「おや？　さつき動いたような気がするが……さて、気のせいかなあ

？」

コイツ気づいてやがるなあ！　ちつくしよう！　だが逆らえない  
のだ！

そう！　安価は絶対なのだ！

さて、何故こうなったのか。それは少し前に遡る。

1：名無しの人形 2062／11／25 14：11：44 ID：  
2 l u a V 7 D ／ M

副官にイタズラしようと思うんだが何かいい案ある？

2：名無しの人形 2062／11／25 14：11：50 ID：  
J l m g 4 k Y U z

お？　安価か？安価なのか！

3：ムテキゲーマー 2062／11／25 14：11：56 I

D : j k h ／ Z q 3 W D

ヒヤツハー！久しぶりの安価スレだ！

4：名無しの人形 2062／11／25 14：12：03 ID：  
i 2 D b p n + W V

乗り込め、

5：最強のブルパツプ 2062／11／25 14：12：09  
I D：J W t B M s 9 Q K

安価スレか……私も同行しよう

6：名無しの人形 2062／11／25 14：12：16 I D：  
4 q g P 9 T O K +  
▽▽5スレ監視院

7：最強のブルパツプ 2062／11／25 14：12：22  
I D：Q r n y s Y I 9 Q

▽▽6人を二ートみたく言うのやめろ

8：名無しのSG 2062／11／25 14：12：28 I D：  
H W B e R z p 3 n

▽▽1とりあえずスペック欲しい。欲しくない？

9：ムテキゲーマー 2062／11／25 14：12：35 I  
D：r 3 s 4 h L U w w

▽▽8スペックいる？

10：名無しのSG 2062／11／25 14：12：41 I  
D：G Y b S E u I A g

▽▽9いる（鋼の意志）

11：名無しの人形 2062／11／25 14：12：48 I  
D：x i T + 2 X S V I

▽▽10お前絶対レズ褐色SGだろ

12：名無しの指揮官 2062／11／25 14：12：55

I D : 6 Q Q s h g 6 4 R

➢➢8とりあえずスペックは

4 0 4 A R F N 性別；女

4 0 4 A R F N 職業；指揮官

4 0 4 A R F N 身長；少し低め

4 0 4 A R F N 体重；ヒ♥ミ♥ツ

と、まあ、こんな感じかな♪

1 3 : 名無しの S G 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 1 3 : 0 2 I

D : 8 / 2 1 R 7 e x X

➢➢1 2 あ、おいまてい（江戸っ子）大切なところ入れ忘れてるゾ

1 4 : 名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 1 3 : 0 8 I

D : 3 t y H j f U o 2

➢➢1 2 そうちゾ、スリーサイズが入つてないやん！

1 5 : 名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 1 3 : 1 5 I

D : L 2 d X n O g Q c

➢➢1 3

➢➢1 4

ホモなのはどうしてスリーサイズを知る必要があるんですか？（正論）

論

1 6 : 名無しの S G 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 1 3 : 2 1 I

D : g m 3 0 W E 2 n 0

（ホモじや）ないです

1 7 : 名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 1 3 : 2 8 I

D : X s V S F h Q A T

レズだもんな

18：名無しのSG 2062／11／25 14：13：34  
D : C T 1 C c a A s v

レズじゃないもん！バイだもん！

19：ホモの指揮官 2062／11／25 14：13：40  
D : I V E f T Y I O R

すまない！ホモ以外は帰つてくれないか！

20：ムテキゲーマー 2062／11／25 14：13：46  
I D : E 2 3 I 8 2 V ／ L

なんでホモがいるんですかね……

21：最強のブルパップ 2062／11／25 14：13：53  
I D : H 3 ／ V X Q Z e C

おいおい、話ズレてるつて

♪♪12それで？イタズラは安価で決める感じでいいんだよね？

22：名無しの人形 2062／11／25 14：13：59 I

D : 9 M B J D C f 6 S

♪♪21 そうだよ～何かいい案ある？

23：最強のブルパップ 2062／11／25 14：14：06  
I D : A 6 e i y X U W Q

♪♪22 まずはどの番号を指定した方が良い

24：名無しの指揮官 2062／11／25 14：14：13  
I D : u f t H g V v n h

♪♪23 お、そーなのか！なら♪♪30の人！

25：名無しのSG 2062／11／25 14：14：19 I  
D : p s y N R Z p O 9

>>>24配信レズセ！

26：名無しの人形 2062／11／25 14：14：26 I  
D：P／6 P d w U L m

>>>24死んだフリ！

27：ホモの指揮官 2062／11／25 14：14：33 I  
D：6 s B m 6 6 x 9 4

>>>24千年殺し

28：名無しの人形 2062／11／25 14：14：39 I  
D：L t D T V u S y R

>>>24核を使う

29：最強のブルパツプ 2062／11／25 14：14：45  
I D : q C 3 f E I J 1 B

>>>24銃にセラコートで相合い傘

30：名無しの人形 2062／11／25 14：14：51 I  
D : n J 3 s I g K + 1

>>>24寝たフリ

フム、寝たフリか～ダネルに効くかなあ……駄菓子菓子！ 安価は絶対なのです。

と言うわけで、ダネルがいない今の内に寝たフリしておこう。

一度モニターの電源を切り寝たフリを敢行する。お、ドアの開いた音がする。これは帰ってきたかな？

そー言うワケで今に戻る。

さて、どうなるか……あ、おい待て、無言で服に手を掛けるんじや

ない！あ、やめろ！服の中を弄るな！

「……つ、あつ」

こ、コイツ!? 私の弱い所を!? 駄目だ。ここで声を出しては行けないのだ……そう、寝たフリを続けなければ……安価は絶対なのだ……ツ！

「ふむ、いつたんこの程度でいいだろう」

ダネルはまた外に出ていく。よし！ 今之内にモニターの電源を

ON!!

お、スレ続いてるじゃん

5 4 :名無しのSG 2062／11／25 14:21:08 I

D : v a Y s H 1 3 o Z

だから！私は愛でてるだけであつて！発情してるワケじやないんだつてば！

5 5 :ムテキゲーマー 2062／11／25 14:21:13

I D : J P x j H 3 M S j

ほんとお？

5 6 :名無しのSG 2062／11／25 14:21:20 I

D : 2 v Z D V 0 k K N

ほんとほんと♥

5 7 :名無しの人形 2062／11／25 14:21:26 I

D : Z D h 1 G D T j a

レズは嘘つき、はつきりわかんだね

5 8 :ホモの指揮官 2062／11／25 14:21:33 I

D : 4 h j P Z g + R Z

すまない！ホモ以外は帰つてくれないか！

5 9 :名無しの指揮官 2062／11／25 14:21:39

I D : H T F o X J y l Y

まだいたのか

6 0 : ムテキゲーマー 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 1 : 4 4

I D : a h s D Z x 8 T G

お、帰ってきたか！どうだつたよ？

6 1 : 名無しの指揮官 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 1 : 5 1

I D : D 4 c E V k Q 2 S

逆にイタズラされました……

6 2 : 名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 1 : 5 8 I

D : E J h j G 1 U X o

ええ……

6 3 : 名無しの S G 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 2 : 0 5 I

D : 4 j b 1 G a D P J

ちよつと詳しく！

6 4 : 最強のブルバップ 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 2 : 1 0

I D : d 9 D O / 1 g P f

ちよつと指揮官雑魚すぎんよ～

6 5 : 名無しの指揮官 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 2 : 1 5

I D : i Z r 1 H o v i p

>> 6 2

>> 6 3

>> 6 4

ちやうねん……ちやうねん……副官が強すぎるねん……

6 6 : 名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 2 : 2 1 I

D : T P N n a B / r N

人形に勝てない指揮官おりゅ?

6 7 :名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
1 4 : 2 2 : 2 8

D : p 4 S p 1 z D W K

おらんやろ

6 8 :名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
D : e N F y K N N / O  
1 4 : 2 2 : 3 3

いるんだよなあ……

6 9 :名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
D : O 9 7 F / 4 C i W  
1 4 : 2 2 : 4 0

指揮官は所詮……副官に負ける敗北者じやけエ!!!

7 0 :敗北者の指揮官 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
I D : C X n e B H / B 5  
1 4 : 2 2 : 4 6

取り消せよ!今の言葉ア!

7 1 :名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
D : V V r Z B d 4 6 6  
1 4 : 2 2 : 5 2

名前変わつて草

7 2 :ホモの指揮官 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
D : v X 2 0 z I b u x  
1 4 : 2 2 : 5 7

やつぱり敗北者じやないか (歓喜)

7 3 :名無しの人形 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5  
D : o F Y J B 1 M a w  
1 4 : 2 3 : 0 3

I I I

乗るな指揮官! 戻れ!

74：最強のブルパツプ 2062／11／25 14：23：10

I D : D I 3 x N v 3 2 j

はいはい、まーた話逸れてるよ～そんで？次のイタズラまだ募集してる？

75：名無しの指揮官 2062／11／25 14：23：16

I D : 7 u + H Z 8 Y X s

＞＞74このまま引き下がるのは癪なのだ！よし！次は＞＞86  
！君に決めた！

76：名無しの精神崩壊 2062／11／25 14：23：23

I D : 6 m f N / j S b 3

フフフ……SEX！

77：名無しの人形 2062／11／25 14：23：29 I

D : V E 1 H c P w F n

＞＞76やめないか！

ここは無難にコチヨコチヨで

78：名無しの人形 2062／11／25 14：23：35 I

D : E P j 3 r N J 8 c

ちつちやい子の服着させようぜ！K L I Nとかさ！

79：名無しの人形 2062／11／25 14：23：42 I

D : z 7 5 p 8 j d K k

お前その人形がちつちやかつたらどうすんだよ……  
あつ、ワイはせつかくだから死んだフリを選ぶぜ！

80：ムテキゲーマー 2062／11／25 14：23：48

I D : g M q M c y S V H

からあげにレモンかけようぜ！

8 1 : 最強のブルパツプ 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 3 : 5 3

I D : n T m 4 B p v E u

は？死刑

ハイポーション作つて飲ませようぜ！

8 2 : 名無しのSG 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 3 : 5 8 I

D : A W 8 + h J m s K

濃厚レズセ

8 3 : N T W - 2 0 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 4 : 0 4 I

D : E 4 o S z B K 5 J

玩具攻め

8 4 : 最強のブルパツプ 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 4 : 0 7

I D : K G O t p H P h N

は？これ本人？

8 5 : 名無しのSG 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 4 : 1 4 I

D : O h S + u O w 8 p

ふあ！？

8 6 : ホモの指揮官 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 4 : 2 1 I

D : S N B R 8 d J 1 I

ヌツ！？

8 7 : ムテキゲーマー 2 0 6 2 / 1 1 / 2 5 1 4 : 2 4 : 2 9

I D : E T n P P H 3 U b

マジか：

「は？」

えつ、なんでいるの？ それに玩具攻めつて？ えつ？

「と言う訳だ、指揮官。イタズラさせてもらうぞ」

「ちょ!? い、いつの間!？」

あ！ おい！ H A ★ N A ☆ S E ★

この後めちゃくちゃイタズラ（意味深）された……  
やっぱり副官には勝てなかつたよ……